

翻訳者に求められる能力標準とは—各国事情



●プロフィール

西宮 久雄
1961年生まれ。東京大学法学部卒。エレクトロニクスメーカー勤務を経て、2008年、米国バベル翻訳大学院（文芸・映像翻訳専攻）を修了。

以前、読書家の友人がこんなことを言っていました。

「明治の文豪や文化人って、すごいよね。欧米の文献を読みたくても、誰も訳してくれないから、自分で勉強して原書を読みこなしたり翻訳したりしたんでしょ？」

たしかに、明治維新前後から文明開化にいたる時代、日本はまったく異なる西欧の異文化を貪欲に吸収していました。まさに異文化コミュニケーション（やや一方に偏っていましたが）華やかになりし時代で、文化の移転・伝播が積極的に行われていたわけですが、その中で「翻訳」がひとつのキーファクターになっていたことは間違いありません。しかし、前述の友人の言葉にあるように、当時はまだ翻訳はビジネスとして確立しておらず、個人任せの部分が多く、もちろん翻訳スキルの標準化など夢のまた夢でした。とはいえ、旺盛な好奇心と学究心を原動力とした文化人たちの翻訳能力と努力が、近代日本の確立に大きな役割を果たしたことは否定できません。

それから1世紀あまり——。

グローバル化がますます進む現在、他国の文化を理解し吸収し、また自国の文化を世界に向けて発信していくには、トップレベルの翻訳能力が不可欠になっています。文化交流のみならず国際ビジネスの世界でも、単なる文書上の翻訳にとどまらず相手の文化的歴史的背景を理解して踏まえた

上で契約交渉に当たることが、良好な関係を継続し、長期的にビジネスを成功させる鍵になっているのは論を待ちません。このように、総合的な高い翻訳能力が、国際交流の現場で必須のものになっているわけです。

それでは、現代の国際社会で必要とされる、世界レベルの翻訳能力とは、具体的にはどのようなものなのでしょうか。

20世紀後半、製造業を中心に発展したTQC（Total Quality Control：全社品質管理）の動きは、ISO（International Organization for Standardization：国際標準化機構）による品質保証の国際基準として各国の企業に取り入れられ、今やISO認証を受けていることが国際取引の条件になるのが当然という状況です。品質を維持することは、すなわち顧客が商品やサービスに求める価値（Customer Value）を提供し続けることで、顧客満足（Customer Satisfaction）の向上につながり、ビジネスを継続発展させる原動力となります。現代では翻訳業もビジネスとして確立され、フリーランスの個人翻訳者のみならず、TSP（Translation Service Provider：翻訳サービスプロバイダ）会社が多くクライアントと契約を結んで翻訳業務に携わっています。この図式はほかの産業と変わりなく、顧客価値を提供できる品質を維持することが、ビジネスを成功させる必須条件です。つまり、世界レベルの翻訳能力基準とは、顧客が要求する翻訳品質を継続的に維持できる総合的な能力であり、それを支える個々のスキルということになるわけです。

日本を含む先進各国には、公的・民間の別はありますが、国を代表する翻訳団体があり、翻訳の普及、翻訳者の育成、翻訳資格の認定などの活動

を行っています。カナダの C T T I C (Canadian Translators, Terminologists and Interpreters Council) のように、21 世紀の国際社会で翻訳をリードするのは自国だという高い理想を掲げている団体もあり、各団体は自国の翻訳者レベルを国際標準に引き上げるべく努力を重ねています。

英語圏を見れば、前述のカナダの C T T I C をはじめ、オーストラリアの N A A T I (The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)、イギリスの I T I (The Institute of Translation & Interpreting)、アメリカの A T A (The American Translators Association) などの諸団体が、翻訳資格の認定を行っています。当然ながら、資格を満たすには、それに応じた翻訳能力が必要なわけですから、ハイレベルな翻訳資格の認定に必要な条件が、とりもなおさずその国が考える翻訳能力基準だと考えることができます。

ところが実際に詳しく見てみると、翻訳能力を網羅的かつ具体的に列挙している国は多くはありません。オーストラリアの N A A T I は国立の認定機関で、翻訳者レベルを4段階に分け、資格認定を行っています。レベルを満たす能力の記述は翻訳スキルに限定されているなど、総合的な能力基準を提示しているとは言えません。アメリカ、カナダも同様です。そのような中で、イギリスの I T I は、翻訳者に必須の Competence を5項目に分け、具体的に列挙しています。これらの項目は、J T A (日本翻訳者協会) が新たに創設する「翻訳専門職資格試験」の資格要件と共通する要素も多く、翻訳者の国際的な能力基準を具体的に示した例のひとつと考えられます。また、次章からは、J T A と連携して BABEL UNIVERSITY が設定した「翻訳者に求められる能力」—— Professional Competences for Translators の各項目が具体的に紹介されていますが、それと対比させつつ、I T I の能力要件を紹介しましょう。I T I の Translator's Topics (5つの Key Area) と BABEL UNIVERSITY の 5 Competences との具体的な対応関係は、13 ページの表をご参照ください。

翻訳者の能力要件例 (ITI による要件)

1. 自己啓発 (Personal Development)

時間管理能力、ストレス対処能力、自己表現力、交渉能力、倫理規範の遵守など

→ BABEL の Managerial Competence に対応

2. 専門知識 (Subject Knowledge)

リサーチ能力、情報源の確保、インターネットの活用、個人的なデータベース構築など

→ BABEL の Expert (Expertise) Competence および Cultural Competence、IT Competence の一部に対応

3. 語学スキル (Language Skills)

自国語のスキル、翻訳対象言語の知識、推敲・編集・校正能力、要約能力、辞書・文献の活用能力、文体の使い分け、テクニカル・ライティング能力、字幕・ナレーション翻訳能力など

→ BABEL の Language Competence I・II および Expert (Expertise) Competence の一部に対応

4. IT・インターネットの活用 (IT and the Internet)

OA 機器やソフトウェアの活用とアップデート、インターネットプロバイダの選択、セキュリティの確保、翻訳メモリの活用、ターミノロジー管理、翻訳支援ツールの活用など

→ BABEL の IT Competence に対応

5. ビジネス実務 (Business Practice)

起業、財務処理、プロジェクト管理、顧客開拓、顧客管理、マーケティングとプレゼンテーション、著作権などの法律知識、危機管理、人脈の開拓など

→ BABEL の Managerial Competence に対応

上記の能力要件を見ると、私見ですが、3つの

カテゴリーに分類できるように思えます。

第一は、当然ながら翻訳者の中心的な能力である3.の「語学スキル」です。英日の翻訳であれば、英語の理解力はもちろんですが日本語のライティング能力がしっかりしていなければ、ハイレベルな翻訳はできません。原書を要約する能力や、自分の訳文を推敲してブラッシュアップする能力も不可欠と言えます。

第二は翻訳をサポートする能力で、2.の「専門知識」と4.の「IT・インターネットの活用」がこれに当たります。産業翻訳、文芸翻訳を問わず、そのジャンルの基礎知識や背景情報が得られなければ、説得力のある訳文は作成できず、翻訳の品質自体も低いものとなってしまいます。自分の知らないジャンルであればなおさら、翻訳に必要な知識・情報を迅速かつ正確に入手することは重要で、そのためのスキルを身につけておくことが不可欠でしょう。特に産業翻訳では、生産性を高め、品質の高い成果物を迅速に顧客に提供していくために、翻訳支援ツールや翻訳メモリを十二分に活用する能力も必要です。

最後に、翻訳に限らずビジネス全般で必要とされる能力があります。1.の「自己啓発」能力と、5.の「ビジネス実務」能力です。ITを活用する上でセキュリティを確保する能力も、その中に含まれるでしょう。フリーランスの翻訳者として顧客を開拓し仕事をしていくにはもちろん、TSPなどの組織の中で仕事をする上でも、ビジネススキルや自己管理能力は必要です。つまり、国際基準の能力がある翻訳者は、一流のビジネスマンとしてやっていけるスキルを身につけているのが当然ということだと思います。

以上のように、国際基準となる能力要件が具体的に定まれば、要求される翻訳能力に合わせた資格が決まり、その資格に認定されるために翻訳者の個々のスキル・能力を育成する教育の内容が具体的に決まってきます。14ページより紹介する各項目の能力要件を基本に翻訳教育を充実させ、翻訳団体と教育機関、翻訳産業が綿密に連携を取りつつ、国際基準の能力を有する翻訳者を多く育

成していくことが、日本が世界の翻訳をリードしていくキーポイントとなるでしょう。さらに、マーケティングリサーチを推し進め、クライアントの声——すなわち真の顧客価値を明確化して、それを満たす方向に深化させていけば、より実際の翻訳品質と、必要な能力要件が定まるでしょう。

現在、ヨーロッパやアメリカで翻訳品質規格が定められており、ISOでも翻訳品質の国際規格を制定しようとする動きがあります。このような動きと連携しつつ、時代の潮流の変化に敏感に対応していくことが、どの国においても国際基準の翻訳能力を維持する鍵でしょう。顧客価値も、ITツールなど翻訳をめぐる作業環境も、常に変化し続けており、理想とされる翻訳者の能力要件も進化を続けているからです。



翻訳者の能力要件（ITIとBABEL UNIVERSITY）対応表

ITIの5 Translator's Topics	BABEL UNIV.の5 Competences
1. 自己啓発 (Personal Development) ・ 時間管理、ストレス対処 ・ 自己表現、交渉能力 ・ 倫理規範	1. Language Competence I・II ・ 翻訳英日文法 ・ Plain Written English ・ パラグラフライティング などの翻訳文章表現
2. 専門知識 (Subject Knowledge) ・ リサーチ ・ 情報源の確保と維持 ・ インターネット活用 ・ 個人データベース構築	2. Cultural Competence ・ 聖書、神話、フォークロアなど文化背景 知識
3. 語学スキル (Language Skills) ・ 自国語のスキル ・ 対象言語の知識 ・ 推敲、編集、校正、要約能力 ・ 辞書／文献の活用 ・ 文体の使い分け ・ テクニカルライティング ・ 字幕翻訳など	3. Expert (Expertise) Competence ・ 出版翻訳 ・ 金融、IR ・ 特許 ・ メディカル、バイオ ・ リーガル ・ PCソフト／ハードマニュアルなどの 分野の文種・文体の専門知識とターミノロジー
4. IT・インターネットの活用 (IT and the Internet) ・ 最新のOA機器、ソフトウェアの 活用とアップデートの継続 ・ セキュリティ確保 ・ 翻訳メモリの活用 ・ ターミノロジー管理 ・ 翻訳支援ツール ・ スタジオ実務（字幕翻訳など）	4. IT Competence ・ サーチ、リサーチ ・ 翻訳支援ツール、辞書構築 ・ 編集技術
5. ビジネス実務 (Business Practice) ・ 起業、財務処理 ・ プロジェクト管理 ・ マーケティング／プレゼンテーション ・ 顧客開拓、管理 ・ 法律知識、危機管理	5. Managerial Competence ・ 翻訳コーディネーション ・ プロジェクト・マネージメント ・ 起業法 ・ 翻訳者倫理、行動規範 ・ コンプライアンス

※ ITIのTranslator's Topics出典：http://www.iti.org.uk/pages/cpd/transTopics.asp